

プログラム

6月7日（土）

特別講演 1

第 1 会場（メインホール）

10:30 ～ 11:30

座長：新谷 和文（第26回日本訪問リハビリテーション協会学術大会大会長）

「介護報酬と 2040 年に向けた 訪問リハビリテーションのあり方について」

講師：堀 亮介（厚生労働省老健局老人保健課課長補佐）

特別講演 2

第 1 会場（メインホール）

13:10 ～ 14:10

座長：鈴木 修（日本訪問リハビリテーション協会 会長）

「訪問・通所リハビリテーションの課題と展望」

講師：江澤 和彦（日本医師会常任理事）

シンポジウム 1

第 1 会場（メインホール）

14:20 ～ 15:50

座長：関本 充史（日本作業療法士協会常務理事）

「訪問リハビリテーションの制度の現状と課題 ～より良い制度を目指して～」

シンポジスト

P T の 立 場 から：佐伯 孝一（亀田訪問看護センター・訪問リハビリ）

O T の 立 場 から：高島 千敬（広島都市学園大学 作業療法学専攻 准教）

S T の 立 場 から：黒羽 真美（日本言語聴覚士協会 副会長）

日本訪問リハ協会：三浦 祐司（制度対策・調査研究部 部長）

能登半島災害応援セミナー

第 1 会場（メインホール）

16:00 ～ 17:00

座長：山路 雄彦（群馬県 POS 連絡協議会会長）

「災害支援と生活を支える訪問リハビリテーション」

講師：北谷 正浩（石川県理学療法士協会会長）

ノミネートセッション

第 2 会場（201 中会議室）

10:30 ～ 12:00

座長：鈴木 英樹（北海道医療大学リハビリテーション科学部理学療学科）

プログラム

協会企画 学術部セミナー 研究支援 1

第3会場(202 中会議室)

15:30 ~ 16:30

座長: 鈴木 英樹 (北海道医療大学リハビリテーション科学部理学療法学科)

「日々の臨床を研究に ～質的研究で1事例を深く理解する～」

講師: 村上 正和 (日本医療大学保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻)

『座談会』

第3会場(202 中会議室)

16:40 ~ 18:10

司会: 竹内 久美 (熊本託麻台リハビリテーション病院)

司会: 村瀬 文康 (訪問看護ステーションほたるみどり)

教育講演 1

第2会場(201 中会議室)

13:10 ~ 14:10

座長: 本田 憲一 (長崎リハビリテーション病院)

「日本遠隔運動療法協会による 遠隔心臓リハビリテーションの社会実装と地域ケア」

講師: 長谷川 高志 (一般社団法人 日本遠隔運動療法協会 理事)

教育講演 2

第2会場(201 中会議室)

14:20 ~ 15:20

座長: 李 範爽 (群馬大学大学院保健学研究科 教授)

「脳卒中後の自動車運転再開支援」

講師: 伊部 洋子 (群馬大学医学部附属病院リハビリテーション部医師)

教育講演 3

第2会場(201 中会議室)

15:30 ~ 16:30

座長: 大塚 英樹 (公立黒川病院)

「リハ職が介護支援専門員になり実感した 退院時連携の重要性」

講師: 藤本 健 (介護サービスセンターはあとふる)

教育講演 4 第3会場 (202 中会議室)

13:10 ~ 14:10

座長：三浦 祐司 (日本訪問リハビリテーション協会制度対策・調査研究部部长)

「維持期リハビリテーションで重要となる 解剖学的情報について - 筋骨格系を中心に -」

講師：荒川 高光 (大阪歯科大学解剖学講座 教授)

イブニングセミナー 1 訪問リハ職とお金の話 第1会場 (メインホール)

17:10 ~ 18:10

座長：田村 明信 (第26回日本訪問リハビリテーション協会学術大会実行委員長)

「心の底から得たい未来を創造する「ライフプランニング」とリハ職のための「資産形成」

講師：細川 智也 (ソニー生命保険株式会社)

イブニングセミナー 2 研究支援 2 第2会場 (201 中会議室)

17:10 ~ 18:10

座長：村上 正和 (日本医療大学保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻)

「今日から役立つ！ 訪問リハにおける量的研究のポイント

～基本をおさえて臨床に役立つ研究に～」

講師：山上 徹也 (群馬大学大学院保健学研究科 リハビリテーション学講座 教授)

武 瞳 (群馬大学医学部附属病院 リハビリテーション部)

交流コーナー 1 交流コーナー (展示ホール A)

14:20 ~ 15:20

「日本訪問リハ協会 理事・会長さんと」

司会：古賀 阿沙子 (日本訪問リハビリテーション協会 副会長)

山口勝也 (日本訪問リハビリテーション協会 副会長)

交流コーナー 2 交流コーナー (展示ホール A)

15:30 ~ 16:30

「訪問看護ステーションの リハビリの未来を語ろう」

司会：土居 義典 (有限会社 総合リハビリ研究所)

6月8日

特別講演 3 第 1 会場 (メインホール)

9:00 ~ 10:00

座長：竹中 佐江子(株式会社リニエ R)

「リハ職の市長が考える地域づくり、誰もが暮らしやすい街を ～訪問リハビリの役割を考える～」

講師：逢坂 伸子(大東市 市長)

シンポジウム 2 第 1 会場 (メインホール)

10:10 ~ 11:40

座長：新井 健五(群馬県作業療法士会 会長)

「認知症者に優しい地域づくり ～リハ専門職の役割とは～」

シンポジスト

山口 智晴(群馬医療福祉大学 教授)

齊藤 道子(玉村町 健康福祉課 高齢政策係)

吉原 篤(群馬ヤクルト販売株式会社 常務取締役)

佐藤 勇気(株式会社ベシア 人事部 人財育成部長)

日本転倒予防学会との交流セミナー ～転倒を徹底的に予防しよう～

第 1 会場 (メインホール)

13:30 ~ 14:30

座長：古賀 阿沙子(八尾はあとふる病院 在宅事業マネジャー)

「在宅での転倒予防 最新の知見に基づいた 評価と介入のポイント」

講師：村山 明彦(日本転倒予防学会 理事)

群馬県高崎市からの発信セミナー

第 2 会場 (201 中会議室)

10:10 ~ 11:10

「クライアントが地域でいきいき暮らすためには」

講師：目崎 智恵子(公益財団法人 さわやか福祉財団(高崎市第1層コーディネーター))

講師：篠原 智行(高崎健康福祉大学 教授)

優秀演題表彰式・受賞者インタビュー**第1会場（メインホール）****11:50 ～ 12:20**

司会：鈴木 英樹（北海道医療大学リハビリテーション学部理学療法学科）

制度対策・調査研究部報告**第3会場（202 中会議室）****13:30 ～ 14:30**

日本訪問リハビリテーション協会 制度対策・調査研究部担当

教育講演 5**第2会場（201 中会議室）****11:20 ～ 12:20**

座長：勝野 めぐみ（訪問看護ステーション高崎）

「小児訪問リハの扉を開いてみよう」

講師：安井 隆光（こども訪問看護ステーションじん おかざき）

教育講演 6**第3会場（202 中会議室）****10:10 ～ 11:10**

座長：永来 努（イーリハ東大阪訪問看護ステーション）

難聴高齢者の理解と支援 ～訪問リハでできること～

講師：萩野 未沙（中京病院リハビリテーションセンター）

教育講演 7**第3会場（202 中会議室）****11:20 ～ 12:20**

座長：新谷 和文（第26回日本訪問リハビリテーション協会学術大会 大会長）

「在宅リハビリテーションで求められる 身体活動量を保つナッジ」

講師：木村 朗（群馬パース大学大学院保健科学研究科 教授）

プログラム

教育講演 8 第 2 会場 (201 中会議室)

13:30 ~ 14:30

座長：木村 大輔 (群馬県言語聴覚士会 会長)

「リハ栄養口腔の一体的取り組み」

講師：松岡 見咲 (厚生労働省老健局老人保健課高齢者リハビリテーション推進官)

交流コーナー 3 交流コーナー (展示ホール A)

10:10 ~ 12:10

「大東市長：逢坂伸子先生を囲んで」

司会：鈴木 修 (日本訪問リハビリテーション協会 会長)

交流コーナー 4 交流コーナー (展示ホール A)

13:30 ~ 14:30

「認知症対策 山口智晴先生を囲んで」

司会：小此木 諭 (第26回日本訪問リハビリテーション協会学術大会 事務局長)

クロージングセミナー：地域貢献 第 1 会場 (メインホール) 14:40 ~ 15:40

座長：渡辺 真樹 (群馬県理学療法士協会 会長)

「地域づくりと訪問リハビリテーション ～地域へ出て・地域と繋がり・地域で活躍しよう～」

講師：浅川 康吉 (東京都立大学健康福祉学部理学療法学科 教授)

一般演題 口述／ポスター

一般演題

一般演題口述（ノミネートセッション）

ノミネートセッション

第2会場（201中会議室）

6月7日（土）10:30～12:00

座長：鈴木英樹（北海道医療大学リハビリテーション科学部 理学療法学科）

- N-1 退院前カンファレンスにおける訪問療法士の役割
～介護支援専門員へのアンケート調査から～
米澤 秀典（社会医療法人畿内会 岡波総合病院訪問リハビリテーションセンター）
- N-2 震災後の訪問リハビリテーションの取り組みと重要性
柴田 真行（社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院 訪問リハビリステーション恵寿
兼福祉用具レンタルステーション）
- N-3 動眼神経麻痺による眼球機能障害が改善し、QOLが向上した症例
～眼球機能向上訓練の実施～
松本 拓也（医療法人社団 銀緑会 みどり野リハビリテーション病院）
- N-4 訪問リハ利用者のできるADLとしているADLの差について
～LIFEデータを活用した独自のADL評価表を用いて～
村尾 彰悟（介護老人保健施設清雅苑）
- N-5 終末期がん療養者の訪問リハビリテーションにおいて理学療法士・作業療法士が経験した
困難に関する質的研究
岩本 記一（アール医療専門職大学 リハビリテーション学部 作業療法学科）
- N-6 18トリソミー児の在宅摂食・嚥下訓練の経過
～「美味しい体験をしてほしい」家族の想いによりそう～
堀田 真弥（柊訪問看護ステーション）

一般演題口述（フレッシュャーセッション）

フレッシュャーセッション 1 脳血管、高次脳機能障害・認知・精神障害

第4会場（301中会議室）

6月7日（土）14:20～15:20

座長：森本一二三（医療法人甲療会 赤坂台病院）

- F1-1 訪問リハビリにて調理動作訓練を通してQOLの向上を図った一例
吉川 恵都（社会医療法人財団慈泉会 相澤地域在宅医療支援センター 松本）
- F1-2 インターネット動画がきっかけで、家事動作が可能となった左片麻痺者の一症例
田邊 菜穂（社会医療法人北九州病院 北九州安部山公園病院リハビリテーション科）

一般演題

F1-3 後頭葉障害患者に対する訪問リハビリの有用性について

樋之口 瑛大(社会医療法人青洲会 百年橋リハビリテーション病院 リハビリテーション部)

F1-4 ボツリヌス治療と訪問リハビリの目標設定により、日常生活で麻痺手の使用が増えた事例

竹村 文(医療法人財団善常会 善常会リハビリテーション病院)

フレッシャーセッション2 運動器，内部障害，その他

第4会場(301 中会議室)

6月7日(土) 15:30～16:30

座長: 霜鳥 将(鹿教湯三才山リハビリテーションセンター鹿教湯病院 地域医療部訪問リハビリテーション科塩田サテライト)

F2-1 訪問看護利用者における複数回転倒の要因検討

ー当ステーション転倒転落アセスメントツールの活用ー

渡部 佳美(聖路加国際病院 訪問看護ステーション)

F2-2 “1人で出かけたのに!” ～家族との情報共有から生まれた生活の変化～

武石 真愛(イムスリハビリテーションセンター東京葛飾病院 リハビリ科)

F2-3 人となりを尊重し関わる事の大切さ ～主介護者である妻との協働～

玉城 佳穂(イムスリハビリテーションセンター 東京葛飾病院リハビリテーション科)

F2-4 運動量確保と実動作練習を中心に介入し、トイレでの排泄が可能となったがん悪液質を呈した患者の1症例

杉山 亘太(医療法人社団 輝生会 成城リハビリテーション病院)

一般演題口述

口述1 脳血管疾患

4会場(301 中会議室)

6月7日(土) 13:10～14:10

座長: 矢嶋 俊一(医療生協さいたま 熊谷生協ケアセンター)

O1-1 非利き手のみでの包丁操作 ～食材は左右どちらから切るべきか～

佐山 貴志(東松山訪問看護ステーション)

O1-2 長下肢装具を用いた立位・歩行練習と家族指導が座位・移乗能力の向上、外出・旅行につながった1症例

吉澤 和真(本庄脳神経外科・脊椎外科 リハビリテーション科)

O1-3 屋外歩行時の痙縮、疼痛の増悪に対してボツリヌス療法を行った脳卒中片麻痺の1事例

長谷川 陵(医療法人博仁会 志村大宮病院 リハビリテーション事業部)

O1-4 訪問リハビリテーションの可能性 ～在宅生活で行動変容が生じた事例を経験して～

尾関 健至(社会医療法人大雄会 総合大雄会病院リハビリテーションセンター)

O1-5 ストラップ作成が役割の再獲得と社会参加を促進した脳卒中者の一例

松田 麻里奈(岸和田リハビリテーション病院リハビリテーションセンター)

O1-6 脳卒中後遺症の残存する訪問リハビリテーション利用者の屋外歩行に対する障壁の質的解明

小倉 太郎(医療法人和光会山田病院 リハビリテーション部)

口述 2 活動報告・運営システム

第3会場(202 中会議室)

6月7日(土) 14:20～15:20

座長: 水上 卓(医療法人甲療会 赤坂台病院)

O2-1 地域に根差した訪問リハビリテーション ～中山間地域での展開～

辻 友彦(医療法人せいわ会 ならまちリハビリテーション病院)

O2-2 地域共生社会の実現に向けた、地域参画企画の事業化に向けた取り組み

井浦 由基(医療法人福岡桜十字桜十字福岡病院 訪問リハビリテーション)

O2-3 就労支援の円滑化に向けた就労能力評価シートの作成

佐々木 和彦(医療法人福岡桜十字桜十字福岡病院 訪問リハビリテーション)

O2-4 当院通所・訪問リハビリテーション利用者の「働きたい」への支援
～障害福祉サービスとの連携事例を通して～

武平 孝子(医療法人はあとふる 八尾はあとふる病院)

O2-5 訪問看護ステーションにおけるRPAを活用した業務効率化の取り組み

橋本 卓(社会医療法人敬和会けいわ訪問看護ステーション大分)

O2-6 訪問リハビリテーション利用者が語る障害受容 ～講話会開催報告～

古川 郁美(桜十字福岡病院訪問リハビリテーション)

口述 3 運動器・内部障害

第4会場(301 中会議室)

6月7日(土) 16:40～17:40

座長: 杉田 勇(組合立諏訪中央病院 技術部)

O3-1 心理的アプローチと連携による自立した外出の再開

安田 史也(特定医療法人 茜会 北九州市立 門司病院 リハビリテーション課)

O3-2 大腸がん術後症例に対する訪問リハの経験 ～医介連携ネットワークシステムを活用して～

小平 真希子(一般社団法人巨樹の会 宇都宮リハビリテーション病院)

一般演題

- O3-3 寝たきりから始まる挑戦:訪問リハビリで紡ぐ生活機能の再構築
橋本 慈樹(医療法人社団輝生会 船橋市リハビリセンター)
- O3-4 訪問型サービスCでの関わりにより運動機能の改善と活動性の向上につながった一症例
酒井 祥平(医療法人伴帥会愛野記念病院 リハビリテーション部)
- O3-5 訪問心臓リハビリテーションの介入によって自宅生活が改善したS-ICD植え込み後の一症例
坂下 浄(医療法人徳洲会岸和田徳洲会病院 リハビリテーション科)
- O3-6 間質性肺炎増悪後の訪問リハビリテーションの自己管理教育により役割が再獲得できた事例
奥間 健太郎(岸和田リハビリテーション病院 リハビリテーションセンター)

口述 4 難病・終末期

第4会場(301中会議室)

6月8日(日) 10:10～11:10

座長:藤本 知宏(鹿教湯三才山リハビリテーションセンター鹿教湯病院 地域医療部訪問リハビリテーション科坂城サテライト)

- O4-1 ALSの長期在宅ケア・リハビリテーションフォローの経験
～本人の意向・希望を尊重し続けるために～
岡本 陽介(滋賀県済生会訪問看護ステーション)
- O4-2 筋萎縮性側索硬化症を呈した利用者のICT活用
～タブレット・LINEを使用しての年賀状のやりとり～
市橋 慶二(医療法人徳寿会 鴨島病院 リハビリテーション部)
- O4-3 ～カラオケ教室への参加を目指して～
パーキンソン病利用者に対する訪問リハビリテーションの一症例
島本 周治(社会医療法人松涛会 安岡病院)
- O4-4 多系統萎縮症を呈した症例への訪問リハビリテーション
～妻の外出したい気持ちに寄り添った関わり～
小野 晃平(医療法人社団輝生会初台リハビリテーション病院 生活期支援部 訪問チーム)
- O4-5 COVID-19発症後に誤嚥性肺炎により胃瘻で自宅退院した
パーキンソン病利用者への関わり ～食事再獲得に向けて～
高田 乃莉子(在宅総合ケアセンター元浅草)
- O4-6 最期まで在宅療養を支える理学療法士の関わり
～希望を叶えながら自宅看取りした症例～
山本 健太郎(社会医療法人母恋 訪問看護ステーション母恋)

口述 5 調査・研究

第 4 会場 (301 中会議室)

6 月 8 日 (日) 11:20 ~ 12:20

座長：松原 徹(医療法人社団輝生会本部 回復期生活期支援部)

- O5-1 在宅で非がん疾患療養者を看取った家族が据えた訪問リハビリの支援
三浦 はるか(社会医療法人三愛会 三愛訪問看護ステーション)
- O5-2 がん患者の在宅での看取りにおける訪問リハビリテーションの実態と課題
田澤 達彦(ホームケアクリニック麻生)
- O5-3 訪問リハビリテーション利用者の歩行形態における入院予測因子の検討
荒巻 吏志(社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院 リハビリテーション室)
- O5-4 業務用 SNS 導入による情報共有の変化と結果
大崎 雅俊(医療法人健康会介護老人保健施設アイリス 訪問リハビリテーション事業所)
- O5-5 進行性疾患に対する訪問リハの介入効果 ～生活空間の広がりの観点から～
高田 裕斗(独立行政法人国立病院機構兵庫中央病院 リハビリテーション科)
- O5-6 回復期リハ病棟から訪問リハへスムーズに移行するための意識調査
小野塚 涼太(一般社団法人 巨樹の会 八千代リハビリテーション病院)

口述 6 人材育成・教育、連携・ネットワーク、その他

第 4 会場 (301 中会議室)

6 月 8 日 (日) 13:30 ~ 14:30

座長：鈴木 修(社会福祉法人国際保健支援会 法人事務局)

- O6-1 連携で広げる訪問リハビリの可能性 ～多角的取り組みによる患者数増加の成果～
安田 栄太(社会福祉法人柏芳会 田川新生病院)
- O6-2 当法人のサービス付き高齢者住宅における多職種連携強化に向けた
新たな取り組みについて
森本 一二三(医療法人甲療会赤坂台病院赤坂台 訪問リハビリテーション事業所)
- O6-3 リハビリテーション会議を活用した多職種協働による効果
～母としての役割の再獲得と参加の促進～
高野 佳織(医療法人福岡桜十字 桜十字福岡病院 訪問リハビリテーション部)
- O6-4 豊田総合療法士育成センターのカリキュラムの見直しと今後のフォローアップ研修について
庄村 賢二(豊田地域医療センター 豊田総合療法士育成センター)
- O6-5 震災後の環境変化と通所サービス利用困難にて QOL が低下した症例への支援
～訪問リハビリ回数を増やした試み～
中村 秀哉(社会医療法人財団董仙会恵寿総合病院 リハビリテーションセンター理学療法課)

一般演題

- O6-6 当院の回復期から訪問リハビリへ移行した利用者の臨床同行に関するアンケート調査
中元 貴士(医療法人松徳会 花の丘病院)

一般演題ポスター

ポスター 1 運動器, 内部障害

ポスター会場(展示ホール A)

6月7日(土) 14:20～15:20

座長: 米井 亮二(医療法人さとに田園クリニック リハビリテーション科)

- P1-1 腰椎圧迫骨折を受傷した施設入所者に対する訪問リハビリテーションでの関わり
生野 正芳(ソフィアメディ訪問看護ステーション福岡西)
- P1-2 リハビリの必要性を感じていない症例が、人間作業モデルの活用により
介入の継続が可能となった一例
中尾 亮介(東京中央訪問看護リハビリステーション)
- P1-3 リウマチ疾患の利用者に、早期から訪問リハビリテーションが介入したことにより
ADLが拡大した症例
小島 貴大(大同老人保健施設)
- P1-4 人工膝関節全置換術後に訪問リハを利用し入浴動作と屋外歩行が自立した2事例
上木 祐介(らふえる訪問看護ステーション)

ポスター 2 地域(づくり・貢献・創生), 人材育成・教育

ポスター会場(展示ホール A)

6月7日(土) 14:20～15:20

座長: 田辺 泰隆(社会福祉法人勤医協福祉会 勤医協当別デイサービスふきのとう)

- P2-1 地域での事例検討会(DESIELI デシイリ制度)から抽出した
訪問リハにおける若手療法士の悩みと必要な教育
村瀬 文康(株式会社ジェネラス 訪問看護ステーションほたるみどり)
- P2-2 療法士参画による新しい地域リハビリテーションサービスの創設
:モデル事業制度設計から事業委託プロセス
森下 洋平(コトノハ訪問看護リハビリステーション)
- P2-3 個別地域ケア会議におけるリハ職の役割と期待 ～ICFの視点をういた分析～
松原 徹(医療法人社団輝生会在宅総合ケアセンター成城 成城リハビリテーション病院)
- P2-4 能登半島地震被災地域の応急仮設住宅に住む高齢者の介護予防に必要な支援
東馬場 要(災害支援団体ロッツ)

ポスター 3 内部障害, 脳血管

ポスター会場(展示ホール A)

6月7日(土) 14:20 ~ 15:20

座長: 籠島 真依(ゆみのハートクリニック渋谷)

- P3-1 呼吸リハビリテーションの必要性に気付いた!
～スモールステップを重ねコーヒーを飲みに行けた症例～
清水 友絵(訪問看護ステーション 飛鳥晴山苑)
- P3-2 COPD ステージ3の肺年齢95歳の利用者がセルフマネジメント力を高め、
安定して外出可能になった症例。
和氣 竜之介(芳賀赤十字病院 訪問リハビリテーション課)
- P3-3 前庭リハビリテーションの実践
～原因不明のめまいを有する訪問リハビリ利用者に対して介入した一症例～
菊池 隆志(一般財団法人榛名荘介護老人保健施設あけぼの苑 リハビリテーション部)

ポスター 4 その他, 評価・効果判定

ポスター会場(展示ホール A)

6月7日(土) 15:30 ~ 16:30

座長: 長井 一樹(県西在宅クリニック久喜駅前 診療支援課)

- P4-1 目標の具体化と動機づけによって、主体的活動に至った一例
原口 正美(社会医療法人財団池友会 新小文字病院)
- P4-2 通所リハビリへの移行が円滑に行えた事例
佐藤 千枝(介護老人保健施設せんだんの丘 訪問看護ステーション)
- P4-3 目標整理の支援を行い活動内容を増大することができた事例
太田 菜摘(株式会社ジェネラス 訪問看護ステーションはたるみどり)
- P4-4 性格特性を考慮した目標設定による機能向上の可能性 ～そのひとらしさを支える～
橋本 喜子(一般社団法人巨樹の会下関リハビリテーション病院 リハビリテーション科)

ポスター 5 その他, 脳血管

ポスター会場(展示ホール A)

6月7日(土) 15:30 ~ 16:30

座長: 金谷 親好(株式会社リニエR リニエ訪問看護ステーション鹿児島)

- P5-1 自助具の作成が自動車への移乗の自立ひいては活動範囲の拡大につながった症例
澤田 麻美(一般財団法人榛名荘 訪問看護ステーション榛名荘)

一般演題

P5-2 脊髄梗塞患者に対する自立度向上のための自助具の提供

3D プリンターの活用が有効となった事例

楠木 邦弘(訪問看護ステーションこづる)

P5-3 在宅看取り目的から外出への取り組みを検討することができた一症例

野中 一成(医療法人葵会もりおか往診ホームケアクリニック もりおかリハビリテーションセンター葵)

ポスター 6 評価・効果判定, 調査・研究

ポスター会場(展示ホール A)

6月7日(土) 15:30 ~ 16:30

座長: 佐藤 健三(社会医療法人 近森会 訪問リハビリテーションちかもり)

P6-1 回復期病院退院後、シームレスな訪問リハビリテーションの介入は、 FIMの変化に差を生じさせるか?

清水 学(登美ヶ丘リハビリテーション リハビリテーション部)

P6-2 訪問リハビリテーションの効果にサルコペニアが及ぼす影響

岩瀬 拓(国立長寿医療研究センター リハビリテーション科部)

P6-3 FIMの推移による訪問リハビリの効果検証 ー回復期病棟退院から3カ月間におけるFIM分析ー

松田 貴幸(みどり病院 訪問リハビリ)

ポスター 7 脳血管

ポスター会場(展示ホール A)

6月7日(土) 16:40 ~ 17:40

座長: 江口 育恵(公益社団法人群馬県医師会 群馬リハビリテーション病院 リハビリテーション部 言語聴覚療法室)

P7-1 退院後に転倒を繰り返し在宅生活が困難となるも 訪問リハビリテーションで元の生活範囲を取り戻した症例

斉田 直人(ライフサポートねりま リハビリテーション部)

P7-2 メモ帳を活用した認知行動療法を行うことで、再発に対する恐怖感が低減し 職場復帰に繋がった一例

大西 功一郎(訪問看護リハビリステーション癒々)

P7-3 「すっごく楽しかった! また行きたい!」 ～失語症者向け意思疎通支援者派遣事業の活用例～

角田 直美(あうん訪問看護ステーション)

ポスター 8 脳血管 2

ポスター会場(展示ホール A)

6月7日(土) 16:40～17:40

座長: 大住 崇之(医療法人社団松恵会けやきトータルクリニック リハビリテーション科)

- P8-1 同法人内のサービスにつなぐ強みを生かした訪問リハの展開が可能だった症例について
佐々木 和宏(医療法人社団輝生会初台リハビリテーション病院 生活期支援部訪問チーム)
- P8-2 訪問リハビリテーション介入して意欲の向上がみられた症例
篠原 良平(医療法人岡谷会おかたに病院 リハビリテーション科)
- P8-3 在宅生活困難と思われた症例がサービス利用し在宅生活獲得に至るまでの過程について
藤本 龍二(医療法人博光会 御幸病院)

ポスター 9 脳血管 3

ポスター会場(展示ホール A)

6月7日(土) 16:40～17:40

座長: 中村 友美(医療法人社団恵仁会 なごみ訪問看護ステーション)

- P9-1 他職種と支援方針の統一を図り、外出へ繋がった症例
長谷川 あさひ(医療法人社団輝生会 船橋市リハビリセンター)
- P9-2 退院直後の環境適応支援における短期集中型訪問リハビリテーションの役割
～QOL向上に寄与した症例報告～
村岡 聖世(医療法人溪仁会 札幌溪仁会リハビリテーション病院)
- P9-3 発症から2年経過した慢性期脳梗塞患者に訪問リハビリテーションが有効だった症例
上山 淳(指定訪問看護アットリハ常盤台)

ポスター 10 小児関連

ポスター会場(展示ホール A)

6月8日(日) 10:10～11:10

座長: 原 佳祐(アール医療専門職大学 リハビリテーション学部理学療法学科)

- P10-1 特別支援学校に通学する児への訪問作業療法
河面 夏泉(医療法人溪仁会札幌溪仁会リハビリテーション病院 訪問リハビリテーションさくら)
- P10-2 環状21番染色体児を担当して
玉那覇 三智子(医療法人HSR 名嘉村クリニック 訪問リハビリ)
- P10-3 ヒルシュスプルング病の排便障害が与える心理的影響
～便秘対策を検討した学齢期の一事例～
萩原 萌(株式会社リニエR リニエ訪問看護ステーション中野)

ポスター 11 調査・研究

ポスター会場（展示ホール A）

6月8日（日）10:10～11:10

座長：大池 義明（医療法人社団福寿会 慈英会病院）

- P11-1 定期評価導入による利用者・セラピストへのアンケート調査報告
～共起ネットワークを用いた分析～
吉田 嘉樹（社会医療法人仁生会西堀病院 リハビリテーション課）
- P11-2 定期的な身体機能・活動関連評価の導入による実践報告
～実施率と非実施理由に着目して～
菊地 純弥（社会医療法人仁生会西堀病院 リハビリテーション課）
- P11-3 回復期リハビリテーション病院退院後の転倒の発生状況とセラピストの認識調査
高橋 雄太（一般社団法人巨樹の会八千代リハビリテーション病院 リハビリテーション部）
- P11-4 利用者の口腔環境を守りたい！ ～口腔環境への関心向上を目指す訪問STの役割～
佐賀 友美（医療法人 溪仁会 溪仁会真駒内在宅クリニック 訪問リハビリテーション科）

ポスター 12 調査・研究 2

ポスター会場（展示ホール A）

6月8日（日）10:10～11:10

座長：中村 大祐（辻内科循環器科歯科クリニック リハビリテーション部）

- P12-1 訪問リハビリテーションの終了に関する一考察
三村 健（ケアライフ訪問看護リハビリステーション）
- P12-2 当院訪問リハビリ利用者の介入期間と転帰について 整形外科疾患に着目
大友 将男（医療法人社団愛友会津田沼中央総合病院 リハビリテーション科）
- P12-3 訪問リハビリテーション利用者の筋質と介護度との関連
内田 淳也（国民健康保険依田窪病院 リハビリテーション科）

ポスター 13 活動報告・運営システム

ポスター会場（展示ホール A）

6月8日（日）11:20～12:10

座長：中村 亮太（一般社団法人巨樹の会新上三川病院 リハビリテーション科）

- P13-1 入院から法人内在宅サービスへの移行システム構築について
長江 郁弥（医療法人香徳会メイトウホスピタル 訪問リハビリテーション）
- P13-2 当院における不登校児童に対する在宅訪問リハビリテーションについて
後藤 詩織（医療法人社団ユニメディコ 藤が丘こころのクリニック）

- P13-3 続報 まこくり訪問リハの「攻めるは、豊平区」
ー経営効率向上を目指した新たな戦略に向かってー
志村 将(医療法人溪仁会 溪仁会真駒内在宅クリニック)

ポスター 14 連携・ネットワーク

ポスター会場(展示ホール A)

6月8日(日) 11:20～12:10

座長:野本 正仁(公益財団法人脳血管研究所美原記念病院 リハビリテーション部)

- P14-1 腰椎変性すべり症術後両下肢不全麻痺のためサービス付き高齢者向け住宅に入居も
退居して自宅に復帰した一例
好田 勇人(愛とまごころ訪問看護ステーション)
- P14-2 装具受診が困難な在宅利用者に対する遠隔支援の試み
ー装具の修正により移動能力が向上した一症例ー
西山 穂乃佳(医療法人 財団善常会 訪問看護ステーションさくら)
- P14-3 脳出血による寝たきり状態から、多職種連携により、息子の結婚式に参列できた一事例
渡邊 竜也(ソフィアメディ訪問看護ステーション富山北)
- P14-4 訪問の義肢装具士の活動報告 ー訪問リハビリテーション専門職との連携ー
鈴木 啓太(PO-Links)

ポスター 15 高次脳・認知・精神障害、摂食嚥下障害

ポスター会場(展示ホール A)

6月8日(日) 11:20～12:10

座長:布川 才浩(新上三川病院リハビリテーション科 訪問リハビリテーション)

- P15-1 精神疾患を有するクライアントの活動再獲得に向けた訪問リハビリテーションの実践
横戸 祐也(医療法人循和会朝霞中央クリニック 訪問リハビリテーション)
- P15-2 HADSを通し精神状態をポジティブな感情も含めて多面的に評価出来た事例
下村 聡(社会医療法人社団健生会あきしま相互病院)
- P15-3 せん妄の改善を優先した介入により在宅生活が安定した一症例
岡田 晴賀(社会医療法人畿内会岡波総合病院 訪問リハビリテーションセンター)
- P15-4 嚥下障害の克服とともにADLが自立し、施設から自宅復帰できた症例
楠本 一史(こころね訪問看護ステーション)

ポスター 16 難病・終末期

ポスター会場 (展示ホール A)

6月8日(日) 13:30～14:30

座長: 井上 大介(訪問看護リハステーションおんか)

P16-1 終末期に対する訪問作業療法

浅野 友佳子(医療法人社団青藍会クリニック 訪問リハビリテーションらいらっく)

P16-2 緩和ケア病棟のエントリー後、在宅生活の質の向上を目指した1症例

熊野 由美子(特定医療法人泰玄会 泰玄会訪問看護ステーション)

P16-3 終末期がんの利用者を在宅看取りした家族が感じた、訪問リハビリテーションについてのインタビュー調査

音川 史矢(はまなす訪問看護ステーション)

ポスター 17 難病・終末期 2

ポスター会場 (展示ホール A)

6月8日(日) 13:30～14:30

座長: 鈴木 竜弥(医療法人社団 清幸会 行田中央総合病院 リハビリテーション科)

P17-1 多系統萎縮症が進行した利用者の在宅生活維持に向けた妻と本人への支援

木之内 智裕(医療法人社団輝生会船橋市リハビリセンター クリニック)

P17-2 老老介護での在宅生活継続と外出のため離床に取り組んだ事例 -訪問介護との連携-

小林 幸治(目白大学保健医療学部作業療法学科)

P17-3 数回の入院を繰り返し活動意欲が低下した利用者に対する訪問リハビリテーションの支援方法を検討した事例

深谷 芽里(国立長寿医療研究センター リハビリテーション科部)

**P17-4 若年がん終末期患者に対する訪問療法士介入の効果
～生活機能維持とQOL向上の支援～**

西尾 玲子(医療法人社団いぶきの森 のぞみの花クリニック)